

特定非営利活動法人 日本アコーディオン協会 (JAA)

みんなの“夢”をあつめて、フェスタの成功を！

【平成 16 年(2004 年)度・活動のまとめ〈総括〉と平成 17 年(2005 年)度・方針〈計画〉】

2004 年は JAA が NPO 法人組織となり、アコーディオンを通して日中交流が始まり、「アコーディオン・サマーフェスタ 2005」開催を決めるなど、新しい風が吹いた記念すべき年となった。

任意団体として創立当初掲げた、「アコーディオンの新しい風」の原点を大切に、みんなの「夢」を集めて、「かたよらず、こつこつと」をモットーに、ひとつひとつの活動を成功させましょう。法人化の意義を深めつつ、アコーディオンの社会的貢献とは何かを考え、その実現に力を注ぎましょう。

「サマーフェスタ」を成功させるために

社会的貢献の具現として、「2005 年夏、アコーディオニズムの新しい風が吹く！」のキャッチコピーで「アコーディオン・サマーフェスタ 2005」構想が立ち上がった。みんなの力で素晴らしい企画が生まれた。具体的な中味づくりに向けてプロジェクトが動き始めたばかりだが、みんなの力で成功させるためにさらに論議を深めましょう。

1. 「サマーフェスタ」決定までの経過

NPO 設立総会（2004 年 1 月 25 日）において、「第 4 回 JAA 国際アコーディオンコンクール」の 2005 年開催を軸に、事業計画・予算を決定した。6 月に「NPO 法人 日本アコーディオン協会」を立ち上げ、新組織のもと、総会方針実現のために「定款」4 章 14～15 条及び 6 章の「理事会」項目に基づき常任理事会が責任を持って検討を重ね、必要な若干名を加えて運営委員会を構成した。

この過程で JAA 役員や会員、及び専門家を含む一般の様々な意見・提案を得て、コンクールだけに片寄らず「アコーディオンをより広くアピールする」ことの重要性が確認された。

常任理事会としては各理事に FAX、メール及び文書にて提案し、意見を集約。これらの結論として、「サマーフェスタ」開催を常任理事会と運営委員会（6 月 29 日）で決定。以後、企画イメージとしてのパンフレットを作成し、関係団体や個人に 3,000 部以上発送。企画案を立ち上げ、会場や後援、協賛、出演、審査員など様々な交渉を具体化し、諸準備を進めた。同時に各種助成の調査・申請を遂行。企画の全貌が見え始め、本格的な準備段階を迎えて現在に至る。

2. 「サマーフェスタ」開催の意義（企画意図）

アコーディオンを広く一般にアピールする場所としてのフェスタ。
トップレベルの演奏に接する機会としてのフェスタ。
アコーディオニスト同士の交流と学び合いの場としてのフェスタ。
新しい試みや、表現の触発の場としてのフェスタ。
コンクールの場の提供と、国際交流の場としてのフェスタ。
企業の宣伝の場、楽器の紹介の場としてのフェスタ。

3. 「サマーフェスタ」成功にむけての背景

JAA のこれまでの活動が評価され、認知度が高まったことにより有利な条件が生まれている。
ヤマハミュージックトレーディングやローランドなど、企業とのタイアップが実現しつつある。

会員の意識の高まりと、アコーディオンに対する新たな関心の高まり。

中国との交流の開始。

JAPC、AAA、東京都江戸東京博物館との共催が実現。ドイツ、ポーランド、中国各大使館の後援決定。

各プロジェクトが結成され動き出した。

審査員など、各スタッフが充実してきた。

4. 今後の課題

「サマーフェスタ」企画を会員のものとして、JAA の総力をあげて取り組むこと。

宣伝や広報などを強め、広く周りに知らせていくこと。

アコーディオン楽器店とのタイアップの促進。

「サマーフェスタ 2005 を成功させる会」の充実。

全体の力でフェスタ基金、協賛金など資金面の推進を。

各体制を充実させ、理事及び会員の役割を明確にしてみんなの力で取り組む。

当面は事務局の充実のため（会計、ワープロ）、アルバイトやボランティアの確保。

5. 大成功、「中国アコーディオン協会」との交流

第 10 回北京国際アコーディオン芸術祭(コンクール) 2004 年 8 月 10 日～14 日 の審査要請をうけ、松永勇次、川口裕志(以上審査員) 虞錫安(事務局、通訳) 柴崎和圭、森陽介(以上事務局、視察と演奏)の 5 名は、8 日間の中国訪問(北京、上海)を行った。

中国アコーディオン協会会長・張自強氏は「この交流を第一歩として、これから長く交流していきたい」と歓迎の意を表明、当方申入れの日本アコーディオン協会・名誉会員への就任を快諾。

訪問の 4 つの目的を達成。

- ・中国アコーディオン協会との交流。
- ・少年宮を中心とした子どもたちの招請準備。
- ・JAA の活動の紹介と第 4 回 JAA 国際アコーディオンコンクール案内(中国語パンフを作成・配布)。
- ・中国のアコーディオン事情の視察。

幾多の困難があったが、今回の日中交流は JAA にとって大きな意義ある取り組みであった。この成果を「サマーフェスタ」につなげることが大切であると代表団で再確認。

森、柴崎両氏の参加について、募金をいただいた関係各位に心から感謝する。これが大きな資金的・精神的支えとなった。

協会業務と日常活動

魅力的な記事を増やし、会員の積極的な情報提供を促し、事前情報のキャッチとその紹介を機敏に行っていくなど、さらに研究を深め、充実させたい。

【制作・編集】

- 1) 表紙デザインをはじめ、編集に携わる若手陣営による紙面刷新が進み、若向きの紙面に改善。Eメール活用により原稿や写真が広く集まり、編集効率が高まった。さらにアコーディオンに興味を持つ若者をはじめ、広く一般の関心を集めるための改善を行う。
- 2) 紙版下支給からデータ支給（パソコンデータからそのまま印刷）への切り換えにより、中間作業行程が省略され時間効率が高まり、結果として制作コストが下がった。
- 3) 機関誌（32P）、会報（24P）と増頁を断行し、内容の充実を図った。
コンピューターシステムやプリンタ、スキャナ、コピー機などの充実で、一層クオリティの高い紙面づくりをめざす。

【編集委員会の確立】

編集部中心に常任理事会で編集会議を進めた結果、情報提供だけでなく読み物としての質を徐々に備えてきた。編集内容をさらに充実させるために、編集委員会を確立することが必要である。

3. 協会の確立と会員の拡大

1) 会員の継続と拡大

2004年は会員：571名でスタートしたが、現在、名目で555名とやや減少。当面の目標は600名。

【拡大】年間30名の入会（名誉会員と賛助会員含）、退会：46名、休会：9名で、実質16名の減少。

【継続】年末までの未納・滞納：94件（昨年103件）。うち、半年以上の滞納：12件（昨年32件）。前年度よりやや減少したが、これは毎月請求を行ったことと長期滞納者整理の結果による。

全体として、NPO立ち上げという組織改革の中、今年度は会員拡大に重点を置くことが出来ず、成果を充分に上げることができなかった。インターネットを通じての入会者が多かった事実から、まわりを見渡せば広く対象者がいることを考えて、今後の拡大行動に臨みたい。

全国の理事や会員の奮闘によりほぼ毎月入会者を迎えた。東京や千葉、埼玉、神奈川、大阪など主要都市で前進した他、宮崎や静岡、長野、岡山、和歌山からの入会があった。インターネットからは8名で、問合せがいつになく多く、それらの半分が入会。これはホームページの新装開設による内容の充実、増頁して新しく生まれ変わった機関誌「アコーディオニスト」や会報「JAA」の前進によるところが大きい。

「世田谷アートフリマ、20人のアコーディオン弾きのにぎやかし」では小学生から若者までが演奏に参加し、街頭で弾く楽しさを味わった。こうした活動から入会者が生まれた。理事を先頭に臨んだ納入対策が功を奏し、会費納入・継続が進んだ。経済不況の反映もあり、死亡や病氣、高齢による退会が進行している。

会員拡大と定着のためには機関誌のさらなる充実、イベントやセミナー、コンサート企画などの積極的な取り組みが大切である。

【2005年度目標】

一般会員

会員数1,000名を大目標に、まず早期に600名を、次期総会(2006年)までに650名をめざす。会員みんなで入会をすすめよう。

インターネットを充実させて一般に情報を提供しながら、会員拡大を継続する。

「サマーフェスタ」開催による広く一般とのつながりと、NPO法人組織をフルに活用して、積極的に拡大を進める。

JAAのイベントが地方でもできるよう、会員を増やして横のつながりを深める。

1. アコーディオンの普及と振興のための事業

- 1) コンサート、リサイタル、発表会などを後援・協賛する。
機関誌・会報、ホームページで紹介し支援(約146件、230公演)。今後も大いに後援制度の活用を。
教室開設などの後援を講師派遣などで進めていく。現在、ヤマハ教室開設準備中。
- 2) JAA主催・共催のコンサートの可能性を探究する。
大都市でのコンサートや地方でのミニコンサート、講習会やセミナーなどの開催要求があり、ぜひ実現させたい。
- 3) 若い層への普及とあわせ、特に子どもたちへのアコーディオンの普及を目指す。
の導入、コンサート、楽譜・教材の準備、子どものための入門講座・各種セミナーなどの準備を進める。埼玉では「子供のためのフリーベース教室」を開始。
- 4) 第4回JAA国際アコーディオンコンクールの準備活動。
「アコーディオン・サマーフェスタ2005」の活動として継続・発展させている。
- 5) CD、楽譜などの広報宣伝の活動をさらに進める。
当面、機関誌・会報、ホームページで積極的に紹介。制作などの可能性も探る。
- 6) JAA曲集の発行準備。
曲目リスト作成し、バックナンバーを紹介。今後はジャンル、階層別の要求にあったもの、教材的なものなど発行の準備を進める。
- 7) インターネットの活用
ネット入会システムの確立、魅力的なホームページづくり、英語版ホームページの充実。
国際情報を集めて機関誌、ホームページに反映させる。ドイツのアコーディオン専門誌「INTER MUSIK」との情報交換を開始。

2. 機関誌・会報の発行

創立以来、機関誌『アコーディオニスト』(年2回):20号まで、会報『JAA』(年4回):40号までを発行。

【宣伝と普及】

機関誌:1,200部、会報:700部を定期発行。会員への発送の他、宣伝誌として役員に複数発送。楽器店やイベントでの機関誌の販売により、JAAの紹介に努めている。国内の主要団体(JAPC、AAAなど)や企業、主要な新聞社、音楽出版社に贈呈。

【紙面づくり】

- 1) 編集の観点は次の通りである。
文字を大きくし、一定の統一を行う。空白スペースをとり読みやすくする。
楽譜は初級～上級の各レベルに合わせたものを広く掲載。
楽器の奏法や修理法など、専門的分野にも目を向ける。
会員の少ない地方の情報も意識的に取り上げる。
連載ものやライブなどプレーヤーの取材、イラスト・写真コーナーの設置、海外事情の紹介など。
- 2) 会員アンケートを実施して読者の意見・要望を聞き、紙面づくりに生かす。
- 3) 会員紹介や海外を含むアコーディオン界の幅広い情報収集につとめた結果、機関誌・会報への反響が広がる。
- 4) 初心者や一般の人にも楽しめる記事や楽譜、楽器、CD、教材、コンサートの紹介などを推進。
機関誌紙を「普及のための協同の活動」として楽器店や企業に大いに利用してもらうことは、今後の重要な課題である(当面、楽器購入の案内、楽器カタログの紹介や広告など)。

名誉会員 / 賛助会員 / 協賛・後援

業界やマスコミとのかわりが増え、法人化により一層の広がりができた。ヤマハミュージックトレーディングやローランドをはじめ、企業とのタイアップが進進。「サマーフェスタ」をきっかけに、賛助会員制度を運用し、業界や個人に参加を働きかける。

三友社出版(株)が新年度から賛助会員となった。

中国訪問の成果として、中国アコーディオン協会会長・張自強氏が名誉会員を受諾した。

2) 事務局のOA化

パンフ、楽譜などのコンピューター制作が進進。機関誌・会報制作ではメールによるデータ送信で紙面レイアウトデータのやり取りが出来るようになった。

プリンタ複合機はフィニッシャーも備えて、折・綴じまでを自動化し、人件費削減と狭い事務所での効率化が図られた。

「理事会通信」は全国にFAXで定期送信。理事会・総会の出欠回答、アンケート回答などでも活躍。

パソコンはMacG5が活躍。機関誌など印刷物のクオリティが高まり、広い画面と速度で事務効率を格段に上げた。Eメールは通信の要となり、事務局のパソコンと周辺機器は年々充実している。電話機のデジタル化により、転送電話にも対応した。

3) ホームページの反響と事業活動の拡大

現在、専任のホームページ制作を外注し、ページをその都度更新。内容もかつてなく充実し、情報掲載の一部有料化も始まった。NPO法人設立に伴い、その公告や助成団体のリンク、「サマーフェスタ」の宣伝と英文用頁の続行、新設教室紹介など、この分野での課題は山積みしている。この先、webを媒体とした情報提供と事業促進は、JAA発展の大きな柱となる。

爆天の「爆笑問題」(TV)をはじめ、いくつかの演奏依頼はホームページから。ワコール「下着ファッションショー」やNHKBS「夢の美術館」などの問合せも。

広告掲載団体に対して、ホームページ掲載をサービスできるシステムを今後計っていきたい。

4) NPO立ち上げの活動

前年度の機関誌・会報やパンフによる学習と啓蒙活動を基に、2004年1月の立ち上げ総会を経て、6月に「NPO法人日本アコーディオン協会」の内閣府認証を得た。この間、法務局登記、税務署登録などを終えて、いよいよ公の団体としての活動がはじまった。この先、税申告や源泉徴収、それに助成金申請など関連実務が増え、事務局では慣れない業務が山積みしている。

当面、「サマーフェスタ」助成申請の活動を先行させるため、専任者を置いて進めている。

前年アンケート調査では、NPO法人に適合する福祉活動など、各種社会貢献活動を全国の会員が実践し、また積極的に実践しようとする姿が鮮明であった。今後、この方面のサポートを図ってきたい。

法人制度への理解を深める啓蒙は必至。NPO法人の運用について会員に周知徹底させるため、資料提供の必要がせまられている。NPO法人が全国に2万と急速に増え、企業や公共団体が冷えきっているのが現状。助成受理の困難さが見えて来た。申請方法やタイミングなど、作戦が必要である。

5) 財政の充実 [別添：収支決算報告と予算]

[まとめ]

未納・滞納、会員拡大の未達成、機関誌・会報の増頁、パソコン周辺機器の導入による経費増大、NPO立ち上げ経費、「サマーフェスタ」準備活動により、毎月赤字決済が続いた。しかし、事業活動の大きな前進、NPO募金、フェスタ基金募集、常任理事など

からの借入金により、収支決算は予算規模を大幅に上回った。

パソコンやインターネット関連の出費は引き続き先行投資とし、事務所のOA化、合理化をさらに図っていききたい。

楽器販売は運転資金の大きな要素となった。

機関誌・会報掲載の楽譜紹介をホームページに掲げた結果、バックナンバー注文が多数あり(16件:約70冊)機関誌・会報の普及と財政活動の一助となった。

通信費、事務所光熱水費、取材交通会議費、常任理事交通費(大阪)年末理事会、楽譜入力、ホームページ維持・制作費、原稿料の一部を支払うことができた。

[今後の課題]

会員の拡大と継続を重点に、全ての予算項目での目標達成が課題。継続会費納入では、個別に「会費納入のお願い」を文書とはがきで一月毎に発送。会員の自覚と、地域・団体での担当理事による納入促進をお願いしたい。

機関誌の販売活動(宣伝と財政活動)を積極的にし、例えばコンサートなど様々な機会にアピールする。

事業活動の財政的な成功、協賛団体や広告団体(個人)を増やす。必要に応じて寄付を募る活動も行う。

イベント収入の1割、マネージメントの1~2割を協会財政繰入れとすることを制度化した。

インターネットで奏者・講師派遣を宣伝し、一層活発にすることでプロ・セミプロの仕事の場を増やし、協会の活性化を促す。

機関誌への広告掲載は、モリダイラ楽器、音楽センター、ピクトリア・ジャパン、谷口楽器、ローランド、ヤマハミュージックトレーディングが固定。不況から広告料減額や掲載見合わせもあるが、NPO法人として広く呼びかければ拡大の可能性もあり、企業への働きかけをさらに進めていく。

4. 役員体制と事務局、専門部会

[理事会]

新たな前進をめざす協会の発展にふさわしい若手人材を登用し、実質的に活動できる若干のメンバー補充を検討する。

[事務局]

「サマーフェスタ事務局」を新たに開設し、分担して仕事を進めている。

新しい人材開発と合理的な実務運営をめざす。入退会・継続処理などの日常業務、機関誌制作を引き続きアルバイトで進める。

機関誌・会報の発送は、前年度後半からメール宅急便を活用(外注)している。

日常業務や諸活動を同時平行で進められる強力な事務局体制を敷くため、専門部の強化と必要な会議開催を増やす。

NPO法人化に伴う業務増大の中、特に計理士や会計士など、必要な専任職員の配置を検討する。

[事務所整備]

機関誌や資料など10年分の堆積により飽和状態の事務所の整理・整頓、作業環境の整備。

[専門部会・専門委員会・県支部・地方支部]

理事の配置と会員参加により、協会の理念と活動に見合った恒常的な専門部(国際、企画制作、機関誌編集、組織宣伝、事業拡大)や個別の委員会(コンクール、コンサート)を設置し、組織の近代化を計る。

NPO化に伴い、各地の活動の実体にあわせた支部を組織し、それらをネット化する中で県または大ブロック別支部を可能な所から組織し、地方組織の活性化を目指す。

「サマーフェスタ」の開催にあたり、特に国際部の充実が必至。英語のできる事務局員の配置を検討する。

平成 17 年度事業計画書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人 日本アコーディオン協会(JAA)

1. 事業実施の方針

平成 17 年(2005 年)度は、『アコーディオン・サマーフェスタ 2005 / メイン企画:「第 4 回 JAA 国際アコーディオンコンクール」』開催(東京・8 月)の成功を通して、アコーディオン音楽の魅力を広範な市民に知らせ、聴衆や愛好家の輪を広げることを中心課題に事業を推進する。並行して、全国各地での会員の福祉・生涯教育分野における活動に関連して、人材の派遣や育成、経験交流、教育プログラムの開発など協会としての関連事業を実施する。

2. 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施 予定日時	実施 予定場所	従事者の 予定人数	受益対象者の範囲及び 予定人数
演奏の普及・振興に 関する事業	・コンサートの開催 (主催・共催) ・外国人演奏家の招聘 ・依頼演奏への奏者派遣	年間随時	日本各地	10 人	一般市民 10000 人
社会福祉・青少年教育に 関する事業	社会福祉・生涯学習の現場 への奏者や指導者の派遣	年間随時	会員の活動 地域	10 人	全国の福祉施設等 5000 人
奏者および指導者育成に 関する事業	地方公共団体や愛好団体に よる指導者育成セミナーへ の指導者派遣	年間随時	日本各地	5 人	一般市民 500 人
学習教育に 関する事業	幅広い年齢層がアコーディ オン演奏を楽しむための 教育プログラムの開発	年 間	法人事務所	5 人	演奏指導者 100 人
文化交流等の事業	第 4 回国際コンクールの 開催	年 間	法人事務所	10 人	国内外の演奏家・ 諸団体・愛好家・ 一般市民 3000 人
	各国との人的交流	7 月	東京・他	10 人	一般市民 100 人
情報提供と 普及啓発の事業	情報提供のための ホームページの運営	年 間	法人事務所	3 人	一般市民 不特定多数
	機関紙の発行	年間 10 回	法人事務所	5 人	会員・関係団体・市民 1200 人
	教材の提供	年間随時	法人事務所	5 人	一般市民 1000 人
	楽器の輸入と普及	年間随時	法人事務所	2 人	一般市民と愛好家 20 人